酒田市「移住者の住まいと地域の交流拠点 TOCHiTO」
住所：山形県酒田市千石町1-1-4

東京方面から酒田市へのアクセス

航空機	鉄道	高速バス
羽田空港	東京駅	東京
ANA 約1時間	上越新幹線 約2時間	高速バス各社 約8時間45分
おいしい庄内空港	新潟駅	酒田庄交バスターミナル
リムジンバス 約35分	特急いなほ 約2時間	
酒田駅		

お問い合わせ・資料請求

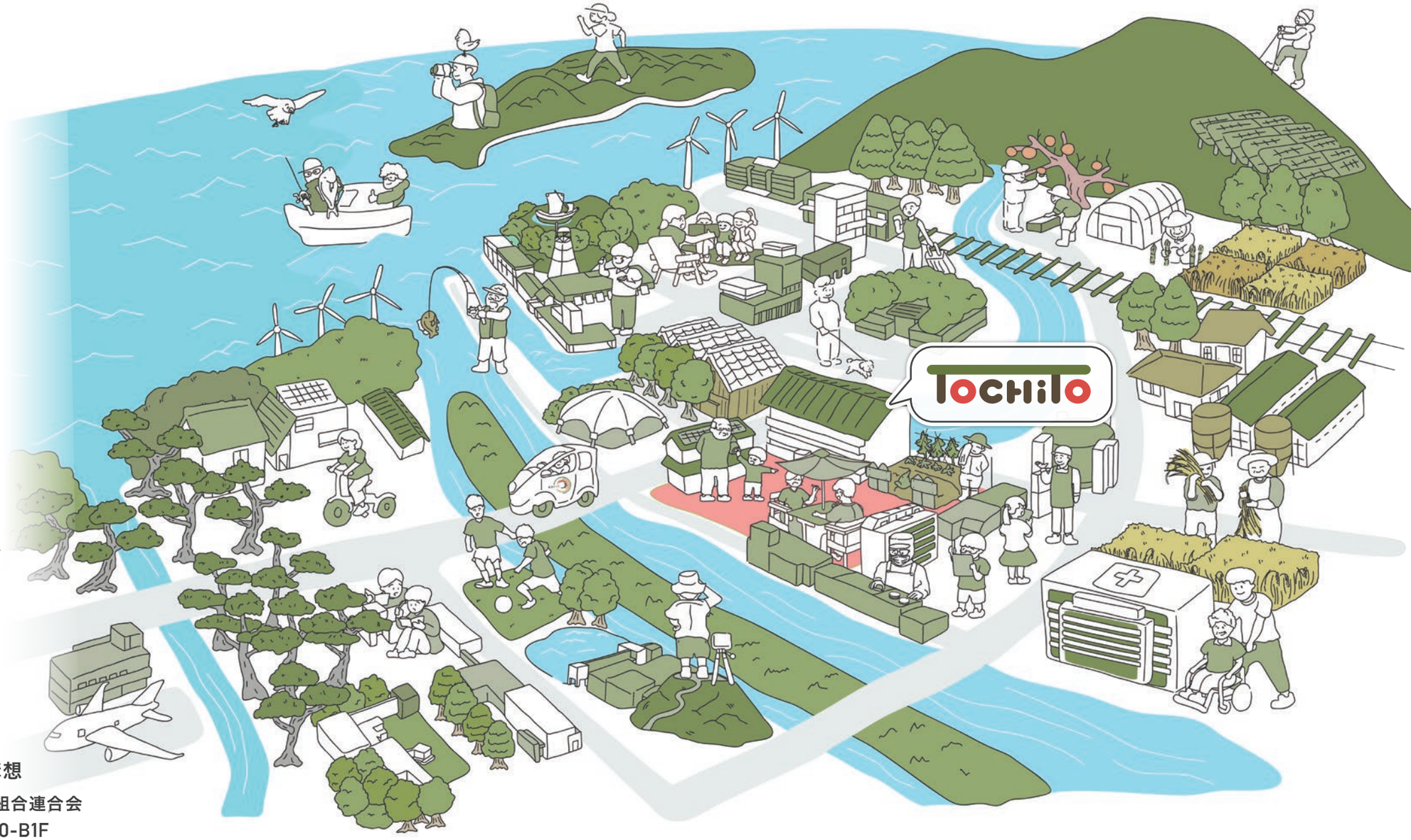
生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会
（政策企画部直通）
TEL：03-4360-3659
（担当：小泉 070-3821-8700）

産地で暮らすウェブサイト
https://sanchide-kurasu.jp

TOCHiTO

「とちと」で始まる参加する暮らし

産地で暮らす



TOCHiTOで始まる参加する暮らし
生活クラブ 庄内の福祉コミュニティ構想

発 行 者　生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会
〒160-0022 東京都新宿区6-24-20-B1F
発 行 日　2022年3月14日
編　　集　企業組合ワーカーズ・コレクティブ企画編集・のもの
デザイン　松本友哉（合同会社とびしま）
イラスト　武長紀生

2021年度酒田市情報発信等活動業務委託事業

生活クラブ 庄内の福祉コミュニティ構想

目次

01.ようこそ！ … P.1 ｜ 02.土地と暮らす … P.3 ｜ 03.集い交流する … P.5
04.参加する暮らし … P.7 ｜ 05.庄内の未来を一緒につくる … P.11
06.持続可能で多様なコミュニティづくり … P.13 ｜ 07.TOCHiTOの暮らしQ＆A … P.14

参加する暮らし

さあ、TOCHiTO（とちと）で参加する暮らしを始めましょう！

01 ようこそ！

どこで、誰と、どんな風に、これから暮らしますか？

自分らしいライフステージを思い描く時、価値や意義を、何にどう見出すのでしょうか。経済の停滞、気候危機、新型コロナウイルスなどが影を落とす社会の中で、人とのつながりや自然との豊かな関係性をつなぎ直す生き方への転換が求められています。社会の動きとライフステージの選択を重ね合わせ、これまでの人や物の流れを変える「地方での暮らし」を自分ごととして考えてみませんか。

2023年春に、山形県庄内地方への移住や二拠点生活を楽しむライフスタイルの拠点「TOCHiTO」が酒田市に完成します。地域の人や新しく出会う仲間と、より魅力ある庄内を一緒につくっていきます。これが、生活クラブが提案する「参加する暮らし」[*1]です。

TOCHiTO[*2]に込めた想い

移住者は、庄内という土地の人・もの・ことと繋がり「参加する暮らし」を始めます。やがて少しずつ地に根づき、自らも土をつくるようになります。そして、土地の多世代の人々と共に手を動かし、参加することで、実りある生活と持続可能なコミュニティをつくります。

とちと TOCHiTO

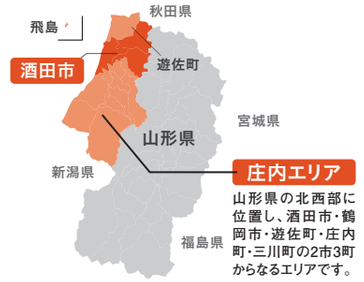
拠点の紹介 TOCHiTOには、大きく分けて3つの機能があります。

TOCO（居住棟）：移住者の住む賃貸住宅
COTO（交流棟）：暮らしをサポートし、地域とつながる活動拠点
CHiTO（中庭）：居住棟と交流棟をつなぐみんなの中庭

＊1 酒田市「生涯活躍のまち基本計画」のグランドコンセプト。鎌田剛氏（東北公益文科大学准教授）によって生み出された
＊2 ネーミングとデザインは松本友哉氏（合同会社とびしま）による

生活クラブと酒田市の連携

生活クラブと山形県庄内地方の生産者は50年以上の提携の歴史があります。生活クラブの食の故郷である庄内地域へのつながりを大切にし、庄内の中核都市である酒田市と移住・定住の拠点づくりの計画を2016年からすすめてきました。産地で「自分らしい暮らし」を創造するプログラムの実現に向けた拠点の構想が「TOCHiTO」です。自らつくり出す「参加する暮らし」が待っています。



サステイナブルなひと、生活クラブ × 酒田市 酒田市生涯活躍のまち構想

「自分らしく生きる」―ライフスタイルの選択肢の１つとして、生活クラブは「産地で暮らす」を提案しました。

移住施策の一環として「酒田市生涯活躍のまち構想」を掲げ、移住者とともにまちづくりに取り組む計画をまとめました。

参加する暮らし―単なる移住定住ではなく、自分らしい暮らしを創造―

移住者が地域と交流しながら、まちづくり等に参加し、その担い手として活躍していくのが「参加する暮らし」です。移住者が安心して暮らせるように、拠点に常駐するコーディネーターと行政（酒田市）の相談窓口が生活をサポート。趣味や社会参加、仕事などを通して、地域に親しみ、自己実現することができる豊かな自分らしい暮らしを創造します。

地域の事業者やNPOが暮らしをサポートします

仮設機材工業株式会社

西村修氏
（仮設機材工業(株)代表取締役）

代表事業者。事業の計画策定から実行の総括及び指揮、施設建設、施設の維持・管理・メンテナンス等を行ないます。

NPO法人 パートナーシップオフィス

交流棟に常駐して施設の運営を担います。移住者の日々の相談に対応し、地域社会や地域活動への参画をサポートをします。

合同会社とびしま

多彩な経歴を持つ移住者を含むスタッフが、交流棟の運営補助、環境・自然学習、移住相談、起業アドバイスを行ないます。

参加する暮らし

多様・多世代の移住者が暮らす賃貸住宅

02 土地と暮らすTOCO

「TOCHiTO」は、庄内・酒田の歴史を伝える山居倉庫の向かい側に位置します。TOCO（居住棟）は、鳥海山や新井田川の景観が望めるよう北東にベランダを配置し、豊かな自然と都市型生活を同時に営めるロケーションです。多様なライフスタイルの移住者（シニア世代、子育て世代、単身者、大学生など）のニーズに応え、1K～2LDKまで複数タイプの居室がある賃貸住宅です。エレベーターを設置し、車いす対応のバリアフリータイプの部屋も用意します。

「TOCHiTO」の計画には、生活クラブの組合員が「移住したら『やりたいこと』『欠かせないもの』」を意見・要望として出し合い、それを事業者や酒田市担当者と一緒に検討した内容が反映されています。その結果「参加者それぞれの住まいや暮らしに関するこだわりを共有できていいと思います」「心地よい暮らしや良い空間づくりを一緒に考えていく仲間と暮らすって、わくわくします」など、組合員が参加する暮らしをイメージした住まいが実現しました。

生活クラブのある暮らし

庄内地域には、生活クラブの庄内の提携生産者がつくった生活クラブ生協「生活協同組合庄内親生会」があります。TOCOは生活クラブの消費材が配達される拠点の１つに登録され、慣れ親しんできた消費材が同じように利用でき、移住先でも生活クラブを続けられます。再生可能エネルギーを中心とする生活クラブでんきの利用も可能です。

安心のある暮らし

●全室Wi-Fi完備
●テレビ電話設置：居室の各部屋にネットワーク端末を配置
　・平日（9～17時）テレビ電話が地域交流拠点につながりコーディネーターが相談対応します。
　・土日と平日夜間　提携する警備会社と緊急通報端末でつながります。
●緊急通報ボタン：警備会社とつながります（介護用見守りカメラの設置も応相談）。
●その他：ホームセキュリティ、共用部分電気料、日常清掃、建物点検、特別清掃（床面機械清掃）、消防設備点検、共用灯交換作業、一般管理費（連絡文配布）、現場雑費（廃残材、ゴミ出し処分）、消火器取り換え交換、エレベーター保守点検料など

共益費（8,000円）は、上記のような安心で快適な暮らしに充当します。

地域通貨を活用する暮らし

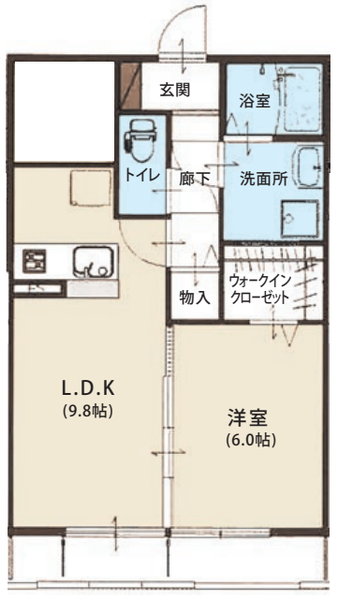
支え合う暮らしを信頼でつなぐのが地域通貨（北前銭）です。例えば、TOCHiTO内の清掃や除雪などで、施設管理に協力すると、労働対価は地域通貨で支払われます。北前銭は、TOCOの家賃や飛島での宿泊費用などに使用することができます。

地域通貨「北前銭」のイメージ

まちなか暮らしを支える移動手段

車両を所有しなくても市内を移動できるしくみを作ります。
●シェア電動自転車の配置。シェアEVカーの利用（2023年春の運用開始予定・有料）
●冬期の移動などには、市内タクシー会社と連携したタクシーチケットを検討中
●酒田市内乗合バス（るんるんバス）のバス停（山居倉庫前）徒歩すぐ

居室の一例



1LDKタイプ
（専有面積41.73㎡）

居室・家賃などについて

●全18戸（1K：3戸、1LDK：9戸、2LDK：6戸）
●1K（29.81㎡）～ 2LDK（55.28㎡）／各戸外物置付き
●寒冷地用エアコン完備（1LDK：1台、2LDK：2台）
●エレベーター、オートロックエントランス
●高断熱・省エネ・遮音・換気に配慮
●2LDKは、シェアルームとして利用可能（※代表契約人を決める）
●ペット可：小動物（犬か猫）1匹まで
●家賃：53,000円～ 78,000円（非課税）
●共益費：8,000円（非課税）※サービス内容はP3「安心のある暮らし」を参照

入居時の諸費用について

●申込金：家賃１ヶ月分
●敷金：家賃１ヶ月分
　（入居契約時に預かり金となり、退去時に金銭債務を除き返却）
●礼金：家賃１ヶ月分
●ICカードキー代：１枚 11,550円（追加1枚 4,950円）
●家賃支払い：前家賃制、当月末まで次月の家賃を支払
●月途中の入居：日割計算
●電気・ガス・水道料、NHK受信料・BS含む（個別契約）
●町内会費：事務局が一括徴収
●駐車場：1台5,500円（税込み月額）利用する方のみ
●駐輪場：1室 自転車・バイク各2台まで無料

施設概要
名称：TOCO｜類型：軽量鉄骨造｜敷地面積：2300㎡｜建物面積：370㎡｜延床面積：1100㎡｜
規模：3階建｜総戸数：18戸｜バルコニー面積：3.3㎡～｜竣工・開設：2023年春

参加する暮らし

庄内自然エネルギー発電基金を活用した地域の交流拠点

03 集い交流するcoto

COTOは、居住者や地域の人が利用する交流棟です。地域の交流拠点となるように、山居倉庫から臨める、誰もが気軽に訪れる場所に配置しています。建設には「庄内・遊佐太陽光発電所」の収益の一部が酒田市に寄附されて造成された「庄内自然エネルギー発電基金」が活用されます。

1F:パブリックスペース

●自然素材・脱炭素社会をめざす

■鳥海山の天然杉を活用した2階建て
■再生可能自然エネルギーの活用
・屋根に太陽光発電パネルを設置
・蓄電も設備
・室内にペレットストーブを設置

●食でつながるーアイランドキッチン

■生産者から提供される食材で子ども食堂を開き、地域の多世代の人とつながる
■季節ごとの郷土料理に親しむ
■生活クラブの消費材を利用した料理教室の開催
■地域カフェや地元の食材を生かした食関連の起業など

●防災への備え

入居者及びシェアオフィス利用者が5日間程過ごせる食料や水、小型発電機、蓄電池、人数分の毛布や簡易トイレなどを常備。避難マニュアルを作成し、地域住民の一員として、地域と協力しながら災害に備えます。

●移住者と地元をつなぐ人たち

移住者のサポートを行なう事業者のNPO法人パートナーシップオフィスの事務所があります。同NPOは、市民、行政、企業、研究者の人たちとの協働と連携による活動実績があり、移住者の相談から地域との交流企画など、幅広く移住者に寄り添ったコーディネートをします。

●移住者と地元をつなぎ、多世代・多様な市民が集まる場

集い・つながる・広がるみんなの拠点となるパブリックスペース。プロジェクター、音響システム、撮影機材、ピクチャーレール、書架を整備しています。

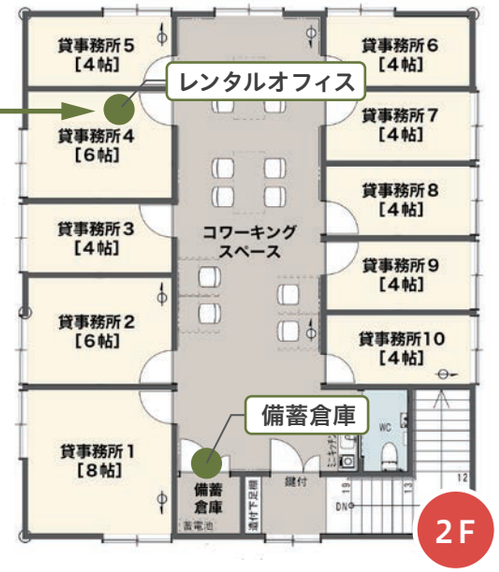
■入居者と地域の方との定期的な交流会を開催
■入居者が自由に利用できる居場所（おしゃべり、読書、仕事など）
■企画された地域交流プログラムに参加
■鏡張りの壁面を活用して、健康なからだづくりや予防介護のフィットネス講座を開催
■入居者や地域の人でサークル活動（コーラス、ヨガ、読書会、手芸など）
■中庭（CHiTO）からの地続きの開放的な空間
■市民ギャラリーや映画会の開催　など

2F:コワーキングスペース

●庄内地域で活躍する多様な企業や団体のレンタルオフィス

地元企業、地域団体、個人などのレンタルオフィスです。地域に根ざした様々な事業を展開し、利用者間の相互交流や、移住者とつながる企画や仕事づくりの拠点としての機能です。

全10室 4,6,8帖
賃　料:25,000円(税別)～/月
共益費:3,000円/月
駐車場代:1台5,500 円/月 別途（予定）



●しごとづくり―特技を生かして、時間を生かして

酒田市役所や庄内地域の生産者からの情報を集約し、個人のニーズにマッチングしたしごとづくりをすすめます。
■提携生産者のグループ(庄内協議会＊P12参照)と、提携して農作業など生産者によるボランティア(有償・無償)の受け入れのしくみづくりを検討中です。
■正社員として働くことを希望する方は、酒田市の無料職業紹介所(UIJターン人材バンク)が求職活動をサポートします。
■スモールビジネスの起業支援などを行ないます。

施設概要　名称：COTO｜類型：木造｜敷地面積：2300㎡｜建物面積：140㎡｜延床面積：280㎡｜規模：2階建｜竣工：2023年春｜開設：2023年春｜家賃：25,000円(税別)～｜共益費：3,000円

「食」「農」「自然」「学」など多様なステージがあります

04 参加する暮らし

新しい生活の拠点「TOCHiTO」で、移住者も地域の人も、「自分らしく、豊かに暮らしたい」との思いを通いあわせ、自分ができること、やりたいことを持ち寄り、地域の未来を一緒に創ってみませんか。人が、地域が元気になる、それが「参加する暮らし」です。

これは、義務ではなく、責任分担からでもない、「思い」による暮らしへの参加です。

参加のありようはいろいろです。地域の出来事や食などの文化、伝統などに関心を持ち、知り、関わりを持つこと。誰かのために、または何かのために、自分のできる範囲で実際に活動し、役割を担うこと。あるいは、活動をつなぎ、広げ、応援し、勇気づけるのもりっぱな参加です。あなたらしさが溢れる参加のカタチ、「TOCHiTO」が待っています。

鳥海山を臨む風景

食を楽しむ暮らし

庄内・酒田は豊かな大自然の恵みにあふれ、新鮮な海山の幸、自然の恵みたっぷりの農産物や山菜などが味わえます。また、旬の食材をふんだんに生かした食文化も魅力的です。

さらに、一流のシェフが腕を振るう「酒田フレンチ」から庶民の味のラーメンも店ごとの麺やスープを競うほどです。米どころのお酒は伝統ある蔵元揃いと、食を堪能するにはうってつけのまち、豊かな食生活が楽しめます。

毎日の暮らしに欠かせない生活クラブの消費材は、TOCHiTOが配送拠点になりますので、これまでと同じように利用できます。

寿司

酒田ラーメン

酒田フレンチ

蔵元自慢の日本酒

農に親しむ暮らし

都会の暮らしではなかなか実現できなかった農を身近に感じることができます。土に触れ、作物を育て、収穫する喜びを味わうことができます。

庄内平野に広がる田んぼでは、春の代掻(しろか)きから秋の収穫まで1年を通してお米づくりに関われます。特産品の庄内柿やメロン、アスパラガス、パプリカなどの野菜や果物の生産者の畑に訪れ、季節ごとの農作業に携われます。また、TOCHiTOの一角に菜園を作り、入居者が野菜などを育てることができます。TOCHiTOの近くの最上川河川敷に貸し農園もあります。

採れたての新鮮な野菜や果物を収穫してすぐに食べることができるのは、産地ならではの贅沢な喜びです。農に親しみ、心も食卓も豊かな暮らしが楽しめます。

遊YOU米の種まき作業

パプリカの苗定植作業

庄内柿の摘果

遊佐の無農薬田で草取り

茶豆の収穫

生産者と働く暮らし

生活クラブの生産者と一緒に働きませんか？　庄内では、田植え作業をはじめいろいろな農業の季節労働があります。これまで、都市圏で消費するだけだった関係を産地で生産に携わり支え手の一人になることができます。

庄内地域の生活クラブ生協の提携生産者が、仕事で活躍する場を提供します。馴染みのある消費材の生産現場に関わってみませんか。

庄内柿の選果

酒田米菓

平田牧場

私たちと一緒に仕事をしませんか

庄内協議会会長
新田嘉七さん
(株)平田牧場代表取締役

飛島

自然を満喫する暮らし

庄内・酒田は、山も川も海も島もある自然豊かなところです。ハイキングや釣り、バードウォッチング、キャンプなど、アウトドアの楽しみは尽きません。2016年には、豊かな自然環境とその恵みを受けた暮らしや文化が評価され、鳥海山・飛島エリアが日本ジオパークに認定されました。

庄内平野

玉簾の滝

地域の役割を担う暮らし

地域の人と交流し、お互いに支えあうまちづくりをすすめます。地域の手伝いや行事に参加したり、プロジェクトを企画したり、地域の一員としての役割と出番があります。

生産者が提供する食材などを活用して、子ども食堂や地域の人との食事会などができます。冬季の除雪ボランティアや地域防災活動も担い手を広く求めています。

除雪ボランティア

再生可能エネルギーで暮らす

脱炭素社会を目ざして、再生可能エネルギーを活用し、省エネルギー生活を送れます。

TOCOでは、生活クラブでんきが利用できます。COTOの屋根には太陽光発電パネル、1階パブリックスペースにはペレットストーブを設置します。

庄内・遊佐太陽光発電所

学びのある暮らし

人それぞれのニーズに合わせた学びへの思いを実現する場やツールがあります。東北公益文科大学は、地域に開かれた大学です。「TOCHiTO」のプロジェクトにも関わり、「参加する暮らし」を提唱する鎌田剛氏（東北公益文科大学准教授）らが中心となって、市民に自ら学ぶ機会を提供し、公開講座や学生のフィールドワークの協力など、新しい学びを体験することができます。また、酒田駅前の交流拠点ミライニには、新しい図書館もオープンしました。

東北公益文科大学
准教授 鎌田剛氏

江戸時代に北前船で栄えた湊町・酒田には文化・歴史が今も息づいています。また日本初の写真専門の美術館「土門拳記念館」や酒田市美術館、本間美術館など、文化芸術と歴史を紡ぐ施設があります。

東北公益文科大学

土門拳記念館

酒田市美術館

シェアする暮らし

分け合って暮らせば充分なものやことは、たくさんあります。シェアすることで無駄を省き、人との分かち合いが新しい関係性を育みます。

・シェアルーム
・シェア電動自転車・シェアEVカー
・中庭の菜園で育てた野菜のシェア

EVカー

安心して暮らす

病気や介護への対応も安心できる体制が整っています。病気では、日本海総合病院を拠点とする地域医療体制が充実しています。

介護では、民間介護事業者（JA庄内みどり、地域NPOなど）が、かかりつけ医と連携しています。

日本海総合病院

参加する暮らし

これからの地域社会づくりは「ローカルSDGs」

05 庄内の未来を一緒につくる

「食べる」と「つくる」をつなぐ

生活クラブの組合員に「庄内とは？」と聞けば、「お米！」「豚肉！」…とおいしい食べ物が次々と挙がってきます。生活クラブと庄内の提携の歴史は、生活クラブが1971年に遊佐町農協（当時）の3,000俵のササニシキを購入したことから始まりました。1974年からは、組合員が庄内地域を訪れ、地元の提携生産者のもとをめぐる「庄内交流会」を毎年継続して開催し、延べ約１万人が参加。庄内は「食のふるさと」となりました。

都市圏で元気に食べ続けてきた組合員の中に、セカンドライフを迎える人や新しい暮らし方を模索する人のニーズが生まれてきました。一方、おいしいものをたくさんつくってきた生産者には高齢化や後継者不足の課題が出てきました。「食べる側・生活クラブ組合員」と「つくる側・生産者」の関係から、「都市圏の生活者」と「生産圏の生活者」が、双方向の提携で持続可能な産地をつくっていくことをめざすのが「FEC自給ネットワーク構想*」です。

庄内ＦＥＣ自給ネットワーク構想

庄内地域の13の生産者が庄内協議会をつくり、2016年に「庄内のＦＥＣ自給ネットワーク構想」が動き出しました。

Ｆ（食）については、2018年に庄内地域の生産者が国内初の生産者による生活クラブ「生活協同組合庄内親生会」が発足しました。生活クラブの消費材を庄内地域で利用できるしくみができました。

Ｅ（エネルギー）については、庄内・遊佐太陽光発電所が2019年に稼働しました。その事業収益の一部を「庄内自然エネルギー発電基金」として、庄内地域の福祉事業に還元するしくみもできあがりました。

そして、Ｃ（福祉・たすけあい）は、庄内地域に都市圏から移り住む、単なる移住定住ではなく、参加することで自分らしさを実現する「TOCHiTO」で始まります。

＊経済評論家・内橋克人氏が提唱した「FEC自給圏」構想にもとづき、生活クラブでは「FEC自給ネットワーク」づくりを方針化。

山居倉庫

庄内の福祉コミュニティ構想

自分らしく生きるための多様な暮らしを考える中で、高齢期を迎える組合員から「住宅の住み替え」や「介護施設や高齢者住宅への入居」などのニーズが増えてきました。生活クラブはそれに応えるライフスタイルの選択肢として、「移住」や「二拠点生活」を提案しました。しかし、はじめから、拠点や場所が用意されていたわけではありません。

生活クラブらしい取り組み方である「ないものは自分たちでつくり出す」の姿勢で、庄内の福祉コミュニティ構想がスタートしました。新しい暮らしを始める場としてのTOCHiTOが生活クラブとつながっているから、はじめの一歩を安心して踏み出せます。

産地で暮らすが動き出す

生活クラブは、2016年に「生涯活躍のまち」構想を推進する酒田市と提携し、新しいコミュニティの拠点づくりをすすめてきました。「産地で暮らす」は、これまで大都市圏で産地から届く食材などを利用してきた組合員が、産地の生活者の一員となって暮らすことです。庄内協議会*や生活クラブ、行政が連携してバックアップします。

＊㈲余目農産加工、㈱飛鳥フーズ、ＡＳＭトランスポート㈱、㈲月山農場、㈲月山パイロットファーム、共同開発米部会、酒田米菓㈱、庄内みどり農業協同組合、㈲杉勇蕨岡酒造場、㈱太陽ネットワーク物流、羽黒・のうきょう食品加工㈲、㈱平田牧場、㈱平牧工房、㈱みどりサービス、生活クラブ連合会

参加する暮らしで庄内の未来を拓く

産地で多くの仲間と自分らしい暮らしを創造する「参加する暮らし」の拠点となるのが「TOCHiTO」です。移住者の住居と地域交流拠点が公民連携で建設・運営されます。移住者が地域にスムーズに溶け込み、機能の一翼を担う地域交流拠点「COTO」には、庄内自然エネルギー発電基金の助成金が活用されます。今後基金は、庄内自然エネルギー発電協議会にはかり、地域事業を推進する移住者が活用することもできます。

庄内のFECネットワーク構想のF（食）とE（エネルギー）とC（福祉・たすけあい）の道具が揃いました。庄内の未来を拓くローカルSDG s を参加するまちづくりですすめていきましょう。

参加する暮らし

関連機関と入居者で協働・連携

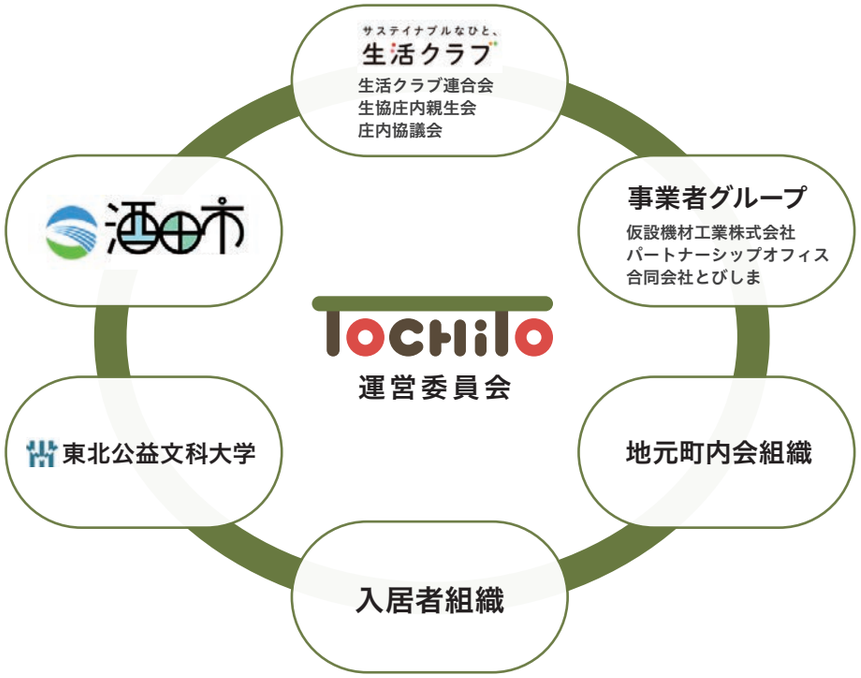
06 持続可能で多様なコミュニティづくり

生活クラブ連合会は、2021年12月に酒田市、庄内みどり農協、生協庄内親生会の４者で、相互の連携により庄内地域の持続可能な開発目標をすすめ、地域社会の発展に資するため、包括連携に関する協定を締結しました。

同時に、「庄内福祉コミュニティ構想」などの覚書を取り交わし、生活クラブ組合員の庄内地方への移住希望を支援し、庄内の生産者・行政・地元大学や地域の方々とともに取り組むまちづくりへつなげていくとしました。

この事業に関係するすべての関係機関や入居者が、常に情報の共有や意見交換をして、移住者向け住宅と地域交流拠点を含む「TOCHiTO」を中心として、FEC「食」「エネルギー」「福祉・たすけあい」が循環する地域づくりをともにすすめていきます。

また、SDGsという誰もが避けては通れない課題に対して、共同宣言を締結している遊佐町など庄内地方の行政・市民とともに食、エネルギー、福祉・たすけあいという「道具」がそろった段階から、地域で市民が自治し循環させる取り組みへと発展させていきます。



※運営委員会の構成イメージ：相互に情報の共有を図り、意見交換をしながら、よりよいプロジェクトへ深化させます。

参加する暮らし

よくある質問にご回答します

07 TOCHiTOの暮らしQ&A

Q1. TOCHiTOは、どんな施設ですか？

A1. TOCHiTOは、「酒田市移住者の住まいと地域の交流拠点・TOCHiTO」です。酒田市が2018年に移住政策として策定した「酒田市生涯活躍のまち基本計画」の第一弾事業として位置付けられています。酒田市の公募で決まった民間事業グループによって、消防署跡地に建設・運営される施設です。

Q2. TOCOの入居条件を教えてください。

A2. 入居条件の制限はありませんが、酒田市以外から移住される方が対象です。移住だけでなく、現在のお住まいとTOCHiTOとの「二拠点生活」も可能です。ルームシェアも代表契約者を決めていただければ契約できます。

Q3. 酒田の冬が心配です。寒さ対策は？

A3. 高断熱、ペアガラスなど、冬でも快適に暮らせる設計です。居室には、寒冷地仕様のエアコンが設置されています。ガス・石油ストーブは使えませんので、電気カーペットなどを敷くこともお勧めします。

Q4. 酒田でしごとを見つけたいです。

A4. 酒田市役所と連携して、さまざまなしごとの情報を提供していきます。正社員として就労を希望される方には、酒田市の無料職業紹介所（UIJターン人材バンク）が求職活動をサポートします。庄内地方の生活クラブ生産者（13事業者）と連携して「生産者によるボランティア（有償・無償）」受入れのしくみづくりも検討中です。

Q5. 入居までのスケジュールと入居費用は？

A5. 2022年4月から入居予約が先着順ではじまり、竣工予定の2023年3月に入居開始予定です。家賃2年分を一括で前払いいただくと、契約更新料サービスなどの特典もあります。

Q6. 食材や生活用品の購入は？

A6. 生協庄内親生会が、TOCHiTOに消費材を届けます。徒歩圏内にスーパーやドラッグストアもあり、近くに商業施設がオープン予定です。整備予定のシェア電動自転車やEVカーも活用できます。

Q7. TOCHiTOで野菜はつくれますか？

A7. 中庭の広場に家庭菜園用の土を入れる予定で、居住者が利用できます。また、TOCHiTOから自転車で5分ほどの場所に貸し農園があります。生活クラブの生産者へ援農ができるしくみもつくる予定です。

Q8. 医療や介護への対応は？

A8. 酒田市は、日本海総合病院を拠点とする地域医療体制が充実している地域です。JA庄内みどりや地域のNPOなど多様な介護施設事業者がいますので、安心です。